

- iPad
- Teams

<単元・題材名等>

ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラムを制作しよう

ねらい

双方向性のある Web ページを閲覧する新1年生のニーズを基に、プログラムの修正点に気づき、中学校入学に向けた不安を解消するための Web ページの制作をすることができる。

主なICTの活用法

- ・ 大型提示装置を用いた Web ページ制作者の専門家へのインタビュー動画を提示する。
- ・ Teams を用いたデジタル版掲示を活用する。

ICTを通じて育成する資質・能力

閲覧者のニーズを考えながら、制作者の立場で課題を解決するための双方向性のある Web ページを制作することができる。

実践の概要

新1年生が中学校入学にあたって不安に思っていることを基に、どんな情報を伝えるべきであるのかを考え、どのような双方向性のある Web ページの構成にするとよいか計画を立てて制作する。

生徒は、「新1年生の知りたい情報を伝えればよい。」と閲覧者の立場で制作を行う中で、大型提示装置を活用して Web ページの制作者のインタビューを聞くことで、制作する上で大切にしていることを理解し、制作者として閲覧者のニーズを考えながら制作する。また、双方向性のある Web ページの制作の仕方が分からなくなった時のために、Teams に制作方法を示したデジタル版掲示を投稿することで、困ったときにそれを手がかりにして制作に取り組めるようにする。

生徒の学びの様子

- 「誰に」「何を」「何のために」「どのように」という目的を明らかにして、小学校6年生が中学校入学後の不安を解消するための双方向性のあるコンテンツ制作に取り組むことができた。
- Web ページ制作の専門家にインタビューした動画を見て、「文字の色や文字数」「全体の統一感」「音声・動画出力」「認証等セキュリティ」など注意するとよいアドバイスを聞き、プログラムを改善・修正することができた。
- 実際にプログラムを制作し、実行しながら動作を確認するとともに、仲間との交流を通して、さらに改善するとよい点について明らかにすることができた。



指導のポイント

- プログラムを制作するためには、コンテンツ自体の構想やその構想を具現するためのフローチャート、アクティビティ図などを基に、改善したり修正したりできるようにする。
- 改善・修正の根拠を明らかにするために、専門家の視点を取り入れるとともに、そのポイントで修正したことで「コンテンツの閲覧数が増えた。」や「実際に〇〇企業のサイトでは同様のポイントが活用されている。」など、実社会とつなげて考えられるようにする。